

地域の誰でもが集える 子育て家族への思いやり発信「地域家族しんちゃんハウス」(大和市)

理事長の館合さんにかがいました

始まりは1997年重度障がい児受入れ施設として「しんちゃんハウス」を開設。現在は様々な活動を通して多くのNPO法人とのつながりを持ち、地域家族を目指した取り組みをしています。

■支援対象は子ども達でしょうか？

子育て世代を中心に老若男女に関わらず、ハンディーをお持ちの方外国籍の方、また高齢者の方まで、地域の皆さんを対象に支援をしています。家庭の事情で放課後にお預かりが必要な児童を中心に食育を通して、異学年の子ども達と交わりながら体験もしています。これから成長する子ども達には自然なものを食べてもらいたいので、出汁から作ることにこだわって提供しています。

■はじめられたきっかけはなんですか？

重度障がい児の子育てを経験し、困ったことがあれば地域の人達との会話の中で話を聞いていただき、その都度助けていただきました。その後、私自身が助けていただいたように民生児童委員の経験も経ていく中で人のご縁に恵まれ地域のつながりを大切にしながら、できる人が行うという、今のような運営に繋がってきたと思っています。

■現在の課題とテーマはなんですか？

今の社会では、子供と向き合う環境をつくるのが難しくなっていると感じています。ここに集まる子供達を見ていると豊かなはずなのに食事の内容に驚かされることもあります。ここでの食育体験が次世代に繋がり「こんな味だったな」と思い出せるような温かい交流を大切にしています。私自身が子育て中に悩んだからこそ、たくさんの知識を吸収し周りに支えられてきた今があるので、それを多くの子育てお母さん方に伝えていき、何でも話せる居場所を作ろうと思いました。行政での24時間体制の相談窓口ができるまでは、私自身も相談窓口を設けていて17時以降の問合せや相談が多かったのですが、ずいぶん少なくなってきたように思います。今後も世代間の交流や講師を招いた学び、この地域ならではのつながりを目標に活動を続けていきたいと思っています。(循環・伝承)

■行政にもとめるものはなんですか？

大和市、社会福祉協議会とは連携させていただいています。孤独・孤立問題を一気に解決することはできませんが、SOSのアンテナが立った人を、どう探すか、そしてそれをどうキャッチするかを考えてほしいですね。また、足を運んで、当事者にあってみて、どんなことが行われているかの探求をしてほしいと思います。

